

東京片貝会報

発行所 東京片貝会
東京港区芝公園2-11-4
電話 (433) 5925

昭和五十五年 新年会のご案内

清らかに新年をお迎えのこととお喜び申しあげます。昨年の二十周年総会は、皆様のご協力により、たいへんな盛会でありました。ただ感謝のほかはございません。これを節目として、更にいっそうの発展を期したく存じます。

総会は何かと行事が多く、前段が長くなりましたが、こんどの新年会は、よけいな行事は一切ございません。

先輩と後輩、又同僚同志が膝つき合せて、語りあい、酒を吸み交わして、楽しい一日を過ごしたいと存じます。故郷の近況もお知らせできると存じます。どうぞ、ご参加ください。お待ちしております。

▽新年会

一、日時 一月二十七日(日) 午後一時(〇時より受付)

一、会場 芝 増上寺大広間

一、会費 三〇〇〇円(弁当、飲み物、果物、菓子、福引き)
国電一浜松町、都営地下鉄一大門、芝公園、御成門下車
福引きは趣向をこらして企画中

同封の返信はがきを一月十八日までにお出しください。名簿編集中です。ので、電話もぜひお書き添えくださいますようお願い申します。

名簿改訂について——お願い——

五十一年春はじめて年次別名簿を発行してから、四年近く経過しましたが、この間随分多くの方の異動がありました。二十周年記念付で余裕ができましたので、

来年の総会までに改訂発行するつもりです。不明の方をお知らせ願いたいので、調査用紙を同封させていただきます。いた方は、お手数でも協力ください。を全会員に発送 3月4日

会の動き

第3回ヤングの集い 2月4日万葉会館。会報19号に掲載

二十周年記念行事計画案を全会員に発送 3月4日

同級会だより

○昭生会(昭2)

物故者の慰霊祭を片貝の正順寺で執行了あと、いこいの家で懇親会を開いた。六月十五日、参加者は三十五名。

また例年の親睦旅行は十月一、三日老神温泉に集合して開催された。参加者二十六名、翌日は赤城山に登って紅葉を楽んだ。

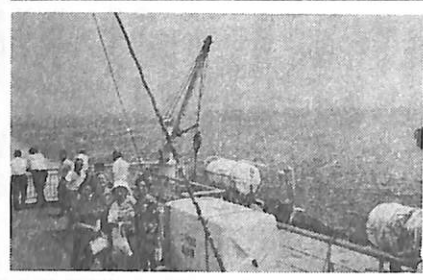
○昭五会(昭5)

七月九、十日、佐渡観光旅行を実施した。郷里の者と関東地区の者が長岡駅で合流、男子二名、女子一九名計四十一名が参加したバスで新潟港に向かう。

相川で一泊、佐渡おけさ、相川首領を觀賞し、翌日は尖閣海を遊覧。天候にも恵まれ、楽しい旅であった。(写真は船上の一行)

○和風会(昭17)

本年は「祝五十歳記念」として秋の祭りに花火を奉納、正順寺で物故者の法要、三好亭で懇親会が盛大に行われた。参加者は約九十名。なお、十一月中旬には、湯沢温泉で会計報告を兼ねて懇親会が



○新潟県人会納涼の夕

八芳園で。会より渡辺左武郎、相崎勇次、芝五郎、芝三四司の四氏が参加した。なかなかの盛会であったという。

・片貝協議会と 8月24日 桜の苗木の植樹について相談、会より会長、協議会長安達基吉、副会長安達良一氏が出席。片貝で秋祭り相撲大会に協賛

9月10日 本年も五人抜き賞金を出し好評を博した。終って土俵上で有志が懇親会を催し、交歓を深めた。

9月30日 港区勤労福祉会館で。十五名、新年会の計画立案と役員改選問題を協議した。

○ゆくて会(昭18)

六月二十三、四日、水上温泉で懇親旅行を催した。東京アロックを含め五十名が参加した。翌日は希望者だけで宝川温泉まで足を伸ばして野天風呂につかり、昼食を共にした。来年は五十歳のお祝いを盛大に挙行することを約して解散した。

○伸竹会(昭23)

毎年二月第二日曜に同級会を開く。来年は2月10日の予定。

○風友会(昭25)

浅原神社に男子四十二歳の同族を祈願、勿論女子も参加その数は百三十名であった。式典後八島の安達医院の前から山車をひいて花火を奉納した。華麗な花火を仰いで一同歓声しきりであった。

○陽光会(昭31)

恩師の吉田一雄、土田、茂岡先生を招待申しあげた。

○十三鶴会(昭32)

本年は会を結成して二十周年ということ、七号玉筍、十号玉五筍を九月九日の十時に奉納した山車は支所からくり出し、よまに負けないほどの盛り上がりがあった。また懇親会は前日の八日に三好亭で、出席者六十四名。東京の懇親会は来年一月十七日例年の通り亀戸の升本で開催予定

毎年新年会を開いているが、一月には浅田達夫さんらがお世話役でたいたい企画中。

二十周年記念総会

前途の発展を期して平和島温泉で 6月3日(日)

大会準備

二十周年を盛大にやりたい、という願いが、前々からの念願だった。懇親会も勿論そうであるが、この機会に平年ではやれないことを企画し、それが今後の発展に大きく役立つつような節目ともしたかった。

各年次の方々に、お集りいただいたが、皆さんからも率直な意見を聞いてきた。それをまとめて、今年の新年会に提案して、実行にとりかかった。

まことにお願いし難いことであったが、けっきょく皆さんからの援助を仰ぐことになった。有難いことに、積極的な協力により、予期以上の結果を得たことは、ただ感謝のほかはなかった。会計の詳細は別紙にご報告の通りです。

会場を決めるまで

東京小千谷会や小出会が、たびたび平和島温泉を利用していることを知り、私共も会場を見つけた。二百名以上収容できて、しかも太鼓が叩けるところ、というのが条件である。会費の額も考慮しなければならぬ。都内広しといえども、中々恰好のところがない

けっきょく、ここより他にない、ということになった。下見に、交渉に三回出かけた。私たちはぜひこの計画を成功させたいと、例年にも増して緊張していた。

特に嬉しかったこと

毎回お出でいただく来賓のほかに、今回は郷里から各年次の同級生の方々が、遠路十数名も出席してくださった。これは今まで例のないことで、実に感激だった。また、町出身の市会議員が三名全員で出席いただいたことも嬉しいことだった。

恩師の吉沢実先生は五十年ぶり



これからこの風景を合奏する。会場を埋め尽くす総会と「ふるさと」の唱歌

まず総会を

正午よりの受付後、一時閉会。しかしこれは十時から営業しているのので、早目に来場の方は温泉気分を味わってもらうことができた。正午前から来会者は続々参集され、経験豊かな管のベテラン受け付けも、てんてこ舞いするほど。さしも広い会場が、定刻にはぎっしり人で埋ってしまった。

事業報告、会計審議と予定の議事を終了のち、会の発展に功勞のあつた安達電作前会長に記念品を贈呈、創設者松井卯吉氏はずくに物故されているので、奥様(来迎寺出立)をお招きしたが、高齢の故をもつて欠席された。

- ・ 続いて郷里及び会員に対し、お祝ひ品や記念品を贈呈した。
- ・ 小中学校児童生徒に図書
- ・ ふるさと会館中心に桜の苗木
- ・ 会員関係で叙勲された藤塚太郎、吉原一雄の二氏
- ・ 会員関係で区議に初当選の西

山信男氏
・ 写真撮影で世話
・ になつている佐藤正雄氏

このあと、出席の来賓各位から祝辞をいただいたが、総会はすっかり長くなつてしまつた。このとき吉沢先生が、肩叩き体操やら合唱指導をしてくださったので、漸く寛いだふんいきになつた。

最後に皆様よりの熱誠溢るる厚志による「東京片貝会旗」しやぎり楽器一式(太鼓・縮太鼓・笛・鉦)写真参照。一同に披露ののち懇親会に入つた。

賑かに、楽しく乾杯ののち、平和島温泉が特別に提供してくれたマジックショーで幕をあげた。

みんなの気分もすっかりほぐれてきた。互いに酒を飲みかわし、友との懐しい談笑に、時のたつのも忘れる。

当日の来会者

(103名) 敬称略

来賓 柄沢栄夫 助役



自動車部品販売

三井ミヨ (昭10年卒) (町裏出身) (旧姓太刀川)
大田区大森中2-14-3 (764-3335)

各種印刷

黒崎謹一 (昭12年卒) (町裏出身)
豊島区長崎2-26-10 (957-0422)

左官工事一式

高橋四郎 (昭13年卒) (高見出身)
調布市調布ヶ丘3-63-8 (0424-82-4392)



小川茂雄、本田政秀、早川松太郎
山田七三、小林敬司、日下部政子
山田雅子、山口ヨシ、相崎勇次
松井重治、小宮孝作、石黒佐忠太
芝 五郎、相崎マサ、藤塚栄二郎
藤田睦子、佐藤又次、黒崎米太郎
芋川とし、山口三郎、相崎善次郎
佐藤アミ、丸山春、浅田鉄二
勝又 功、鶴田リツ、黒崎敏五郎
安達達一、小高竹次、吉原ヨシ
大内登世、大矢光治、藤塚勝次
佐藤彦一、芝三四司、石田定子
丸山 茂、城取八重子(茨城)
奥田佳子、武藤睦子、山口武一郎

東京片貝会の皆様へ

武見 太郎

東京片貝会の二十周年を心から御祝申し上げます。今年には片貝からの多数の参加者を迎えられての盛会、嬉しい限りであります。「愛郷心無き者は、愛國心無し」とは、私の少年時代に強く両親から教えられた言葉でした。父は関原、母は片貝で、二人の郷土愛はまことに純粋なものでした。学校が休みとなれば、必ず泊り

に行くのは、今の私にとっては最大の愉しい思い出であります。私個人も現存の方はありませんが、たまたま村を車で通るときは、その小路を見逃さない努力をしております。村の伝統として、学問を重んじた中から、明治の日本の指導者が何人か生れたことは、村の不滅の

吉原菊枝、吉原一雄(ご主人)
森本比夫、三井ミヨ
・昭和11、20年
和田キミ、児玉静江、安達三好
黒田豊次、山口信次、阿部なを
和田謙一、小川キイ、小林チヨ
小宮秀夫、吉井正次、山口福次
高橋四郎、高野光雄、太刀川善藏
安達保治、浅田鉄夫、山口吉五郎
佐藤広次、山田チエ、安達泰二
(片貝) 藤塚吉雄、小野塚忠治
関 啓子、丹治きみ、岩片智恵子
松下利夫、相崎よし、山田美代治
相崎四郎、山田利雄、西山和子
佐藤敏雄、浅田 猛、佐藤道雄
氣田登美、小宮幸雄、浅田チイ
浅田栄二、同伴者 五十嵐貞雄
友田正雄、清水ミイ、金井ヨシ子
・昭和21、30年
相崎富代、阿部修次、井上和子
神林勝夫、山岸恵昭(小千谷)
藤塚真澄、新野次郎、小宮とし江
相崎 敏(片貝) 豊島文枝
本田義雄、相崎達一、児島良子
黒崎 正、浅田義男、吉原光一
小野塚茂、本田文夫、大家順一
吉原芳郎(片貝)、浅田春男

堀井裕枝、浅田好司、鈴木キン子
長沢愛子、本田仁一、黒崎力男
友田 清、小野塚清吉、山口恒
(以上四名片貝)後藤一子(静岡)
仁上 貞、矢作嘉芳、高橋一郎
松岡規子、佐藤祐一、本田繁男
安達 敏、荒木トツ、藤塚文顕
山口拓雄、吉井武次、本田正弘
黒崎 勝、鈴木善隆、安達和雄
藤塚栄一、友田明石、(以上四名片貝)吉井ミチ子、小野塚美知子
山口計子
・昭和31、35年
平石和子、大塚国夫、藤塚 悟
浅田達夫、吉井信三、諸我時夫
芝 文夫、江口幸子、工藤イツ子
山家恵美子
写真、お祝いを受ける(藤塚、吉原、西山三氏)

たより・たより

「ふるさと片貝」をお送り下さりまして厚くお礼申し上げます。片貝でお世話になった気持ちを生運入れられぬ宝物となること思っています。片貝会の発展に対し深く敬意を表します。

歴史だと考えます。東京に移り住んでも、あの村の自然と人情は、常に思い出の中に生きていますものと信じます。

本日は伴の結婚式で、片貝会へは失礼致しますが、皆様どうぞ御健康で郷土の心をいつまでも生かして頂きたいものです。

二十周年おめでとう存じます。

(このメッセージは、二十周年を祝して、武見先生がお寄せいただいたものです。佐藤会長が代読)

ご芳志深謝

総会当日、ご招待申しあげた来賓各位より多額のお祝い金を頂いたことがどう存じます。小生相変らず元氣、皆々様に呉れぐれもよろしく。

(恩師吉沢実先生より)

先生は大正十年頃母校に教鞭をとられた。その後音楽学校に入り、音楽教育に活躍。岩田の出身で、お父様も母校の先生でした。

「ふるさと片貝」をお送りいただき懐しく拝読いたしました。よく編集されており、読者に考える場を提供されていることに敬服いたしました。片貝会の発展を心からお祈りしております。

(前小学校長 藤田英雄)

総会にご招待いただき、心温まる記念品まで頂戴いたしました。恐縮に存じます。皆々様のご苦勞に、厚くお礼申し上げます。

(昭9 吉原菊枝、ご主人が昨秋 叙叙)

浅田屋
おいしい手づくりの
豆腐 油揚げ 製造販売

浅田 栄三 (昭和19年卒) 五ノ町出身
世田谷区用賀4-28-2 (700-1713)

三重堀工務店
建築設計

三重堀 清代 (昭和20年卒) 一の町出身
三重堀 千代 (大正7年卒)

足立区島根2-17-20 (850-5101~2)

ステーキ・鉄血焼きの店
レストラン吉甚

石上 克己 (昭和26年卒) 一の町出身
港区芝浦3-20-9 (452-0887)

この欄は会員の活動を紹介するために設けています。

東京片貝会会報告

| | |
|------------|------------|
| 収入 | ¥1,728,118 |
| 前年度繰越高 | 463,146 |
| 年会費他(323名) | 280,700 |
| 総会費 | 534,000 |
| 〔懇親会費儀〕 | 375,000 |
| 〔懇親会費儀〕 | 159,300 |
| 新年会 | 349,000 |
| 〔懇親会費儀〕 | 312,000 |
| 〔懇親会費儀〕 | 37,000 |
| ヤングの会費(22) | 74,000 |
| 寄付金(3) | 23,000 |
| 銀行利息 | 3,972 |

(自昭和53.4.1 至昭和54.3.31)

| | |
|---------------------------|------------|
| 支出 | ¥1,728,118 |
| 総会 | 485,130 |
| 〔郵刷費〕 | 96,000 |
| 〔印刷費〕 | 22,360 |
| 〔食費〕 | 3,690 |
| 〔食費〕 | 363,080 |
| 新年会 | 387,852 |
| 〔郵刷費〕 | 41,000 |
| 〔印刷費〕 | 8,500 |
| 〔食費等〕 | 338,352 |
| ヤングの会 | 151,873 |
| 〔郵刷費〕 | 13,000 |
| 〔準備費〕 | 13,181 |
| 〔準備費〕 | 125,692 |
| 事務費 | 40,860 |
| 〔事務処理費〕 | 24,000 |
| 〔事務用品〕 | 16,860 |
| 会報(No.17~19号) | 108,960 |
| 通信費 | 99,968 |
| 〔郵券料〕 | 26,968 |
| 〔電話料〕 | 3,000 |
| 〔20周年郵券〕 | 70,000 |
| 交際費 | 53,210 |
| (小千谷会, 新潟県人会, 浅原神社, 三仏生会) | |
| 会場費(4) | 6,200 |
| 写真代(8) | 72,910 |
| 写真代(3) | 9,000 |
| 次年度繰越金 | 312,155 |

昭和54年6月3日
上記のとおり報告いたします。

会計 安達 道宗
" 大矢 福次

上記は適正且つ正確であることを認めます。

会計監査 小林 敬司
" 黒崎 孝造
" 神林 徳次

歓声こだまして — ことしの秋祭 —

好天に恵まれ、三尺玉二発打上げ

年毎に賑やかさを増している秋祭りは、今年も九月九、十日に盛大に行われた。両日も、よい日和に恵まれ、参詣の人達の心はいやが上り、浮き上がった。例年多少なりとも雨がばらつくのに、こんなにおだやかなよい祭りはなかった、と異口同音に皆さんが顔を輝かせていた。昨秋立派に修復された社殿も、ひと際輝きを増したように感ぜられる。

初孫誕生、先祖の供養、新築、結婚祝いなど、数々の喜びと思いをこめた花火は勿論のこと、各年の同級会同志が、久々に旧交を



神社拝殿前で木やりを唄う鳳友会の人たち

開会ま近か、ふるさと会館

文部省の「ふるさと運動」の一環として、県下二か所に建設されることになった、その中のひとつが片貝に、只今建築中であることはずせにお知らせの通りです。

建物は十一月末に完成、内部の諸設備が整備されて、開館されるのもそう遠くない見込み。町の集会所や各種の教養講座など、幅広い利用が期待されている。ゆくゆくは宿泊もできるよう、検討中とのことである。

場所は浅原神社の拝殿の左側。鉄筋二階建。延床面積は百六十坪。大広間、和室、調理室、研究室、浴室が主な構成になっている。総工費五千四百万円。

(下はのたび会から寄贈した桜)



の苗木。運動広場に。二百本の中百本は朝日新聞より寄贈された。写真(人物の左は協議会長、右は事務局長さん)

桜が植えられる予定のキャンプ場など見えました。すばらしい景観に郷土を見直す思いでした。ふるさと会館、運動広場など、訪れられることを、お勧め申し上げます。

次回の総会には、役員改選をお願いしたいと思っております。

新年会にはぜひ、ぜひ！(S)

ふ る さ と だ よ り

町民大運動会

年に一度、町だけで水入らずの一番楽しい最大行事は町民運動会である。

十月二十一日中学校グラウンドで開催された。新しい優秀カップが五杯も新調されて、意気大いにあがった。各町内の対抗とあって、早くから練習がおさおさ怠りない。秋晴れの天気にも恵まれ、老いも若きも、心ひとつに溶けあつて、楽しい一日を過ごした。

大会長は協議会長の安達基吉氏、責任者は体育協会長の丸山良平氏である。

片貝町文化祭

公民館と美術クラブの共催で、十月三十日から十一月四日まで開かれた。会場は公民館で、書道・手芸・陶芸など多彩な出品で賑わった。又本年始めての企画として、菊花が出品され、華やかさを添えた。

小千谷市文化展

十一月一日から三日まで、小千谷市で開催された。会場の一角に片貝資料コーナーが設けられ、みこ爺や、片貝の歴史を物語る珍しい資料が展示された。

市制二十五周年に際し表彰

小千谷市が市制を施行して、本年度で二十五年になる。これを記念

して、片貝では氏が表彰された。吉井信吾氏、市会議員二十年、議長も勤められた。

山口孝司氏、長年選挙管理委員として現在も在任中。

なお柄沢栄夫氏は助役として、市政に尽くされたが、任期満了で退職された。惜しむ声が高い。

農協三十周年を迎う

片貝農協は町の経済、文化の中心として、大きな役割を果たしているが、本年創立三十年を迎えた。これを契機として、来春早々記念誌が発行される。巻頭には市の名誉市民である詩人の西脇順三郎先生から贈られた詩が掲載されること。

おちやの伝説 — 紹介 —

町の伝説二十九篇を集めて、青年会議所が発行。片貝のも二篇収録されている。頒価千円。ご希望の方は農協へ申込まれるとよい。

落し物!

どなたですか

六月三日の総会の際、会場に小銭入れを忘れてゆかれた方があります。お心当りの方は、至急ご連絡ください。お預りしてあります

あとがき

桜が植えられる予定のキャンプ場など見えました。すばらしい景観に郷土を見直す思いでした。ふるさと会館、運動広場など、訪れられることを、お勧め申し上げます。

次回の総会には、役員改選をお願いしたいと思っております。

新年会にはぜひ、ぜひ！(S)

20周年記念事業会計報告

東京片員会記念事業役員一同

このたびの記念事業計画にあたりましては、左記の三〇一名の会員より、多額の拠金を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。さしあげることができました。尚当初の予算額八〇万円を大幅に金額の明細は省略いたしました。

○明治 (敬称略)

丸山フジ

○大正 2

安達市郎、大塚れい子

○大正 3

太刀川藤吉

○大正 4

丸山貴司

○大正 5

吉原周治、諸橋武之助

○大正 6

安達竜作、相崎政弘、大矢修一

帰山すま、品田軍二、高橋みさ

山崎きい

○大正 8

佐藤正雄、高桑キイ、谷内忠太郎

南雲吉松、藤塚太郎

○大正 10

黒崎セキ、錦織ツタ、石上リヤウ

広瀬ハナ、丸山松江、広井三代次

○大正 11

浅田兼次、樋瓜キミ、小野塚健次

長谷川江津、渡辺左武郎

○大正 12

相崎尚次、浅田庄次、小野塚イシ

安達忠次、安達道宗、大矢福次

神林徳次、沓沢とせ、佐藤量八

清水六郎、水内脩治、山口盛作

和田力子

○大正 13

安達宗吾、石黒兵彦、安達きく

中山義則、中川キサ、能沢敬治

横山秀雄、渡辺イツ、若林きい子

○大正 14

相崎 武、佐藤ハル、鶴田国茂

永井正雄、長谷川セイ子

○大正 15

安達清次、石黒ミス、大塚タケ

神林マス

○昭和 2

相崎勇次、小川茂雄、小野塚まつ

小林敬司、小宮孝作、日下部政子

志賀節子、菅野リヤ、早川松太郎
中江ミツ、丸山広弥、山口ヨシ
山田せじ、山田雅子

○昭和 3

相崎マサ、芝 五郎、黒崎定太郎

細野キク、丸山千代野

○昭和 4

田中キミ、小林サウ、石黒佐忠太

安達武、黒崎定太郎、藤塚栄三郎

石上健次

○昭和 5

浅田鉄二、芋川とし、相崎善次郎

佐藤フミ、佐藤又次、黒崎米太郎

杉本シズ、長野れい、野上フミ

藤田睦子、藤塚トメ、本田寛治郎

丸山 春、山口三郎、吉井六郎

○昭和 6

安達幸一、大内とせ、黒崎敬五郎

勝又 功、黒崎孝造、小宮竹次

須藤文子、鶴田リツ、馬場きい

吉原彦作、和田シズ、神林健次

○昭和 7

大矢光治、高橋一好、相川八重子

長谷川ウメ、小野塚れつ子

○昭和 8

石田定子、黒崎 勇、城取八重子

佐藤彦一、高橋忠夫、中溝フミ

丸山 茂

○昭和 9

鈴木より、豊田チヨ、長野チイ子

堀井豊作、武藤睦子、山口武一郎
吉原菊枝

○昭和 10

黒崎 静、高橋喜美、高野八重子

富塚ヨシ、三井ミヨ、森本比夫

○昭和 11

小宮繁雄、藤塚敬次

○昭和 12

安達三好、阿部なを、小川キイ

黒崎謹一、児玉静江、小林チヨ

山口信次、和田豊次

○昭和 13

今井スミ、高橋四郎、高野兵平

○昭和 14

安達保治、石上文子、高橋幸治

丸山恵次、五十嵐アヤ子

○昭和 15

佐藤広次、佐藤修司、太刀川三郎

山田チエ

○昭和 16

安達敬一、関 冨子、岩片千恵子

谷口イク、藤塚吉雄、中町みちよ

○昭和 17

相崎ヨシ、石原ミツ、五十嵐忠作

丹治きみ

○昭和 18

浅田昭市、浅田 猛、木村百合子

安達トヨ、小島京子、城所テル子

佐藤敏雄、佐藤道雄、山口ミナ子

鈴木スヨ、松下利夫、山田美代治

- 本谷ミヨ、山田利雄
 ○昭和19
 浅田栄三、浅田 清、石井ゆり
 気田登美、小宮幸雄、田口トウ
 西山和子、山口文三
 ○昭和20
 小宮二郎、佐藤トシ、内藤八重子
 友田正雄、野地キイ、三重堀 清
 金井ヨシ子
 ○昭和21
 相崎富代、安達和三、安部修次
 小高良子、小宮きよ、長谷川貞夫
 高野 賢、藤塚真澄、本田富雄
 横山信次
 ○昭和22
 相崎達一、浅田義男、五十嵐キヨ
 小倉和江、埴山悦郎、大矢イト子
 黒崎 正、児島良子、豊島文江
 星野いき、本田幾雄、星名恵美子
 宮沢一子、山岸雪子
 ○昭和23
 浅田敏雄、浅田六郎、荒木トシ
 石黒文雄、小野塚茂、小野 勇
 佐藤金三、諸橋 存、関 弘
 ○昭和24
 浅田好司、浅田春男、宵木マツエ
 長沢愛子、本田幸男、永井 一
 ○昭和25
 相崎幾子、猪山イツ、芦沢由紀子
 大坂照子、久賀 勇、小林 均
 嶋田良子、仁上 貞、山賀恵美子
 ○昭和26
 安達 進、石川春子、安藤真理子
 石上克巳、佐藤キイ、石井恵美子
 関 文子、千葉悦子、松川セイ
 丸山文男、山崎勝子、高橋一郎
 ○昭和27
 安達 敏、大橋洋子、荒木ムツ子
 吉原 勉、吉原靖子、本田繁男
 ○昭和28
 奥瀬洋子、黒崎 勝、小川裕記子
 本田正弘、吉井武二、小野塚恭二
 吉原 宏、渡辺アイ子
 ○昭和29
 大塚 清、黒崎敏雄、宮下愛子
 ○昭和30
 小林正雄、小林 勇、山崎英輔
 吉井ミチ子
 ○昭和31
 大塚国夫、小林信子、飯島ヤイ子
 田口 操、藤塚 悟、細貝ミツ
 ○昭和32
 浅田達夫、黒崎和広、黒崎玲子
 重原文明、諸我時夫、山田耕平
 吉井信三、吉原幸子
 ○昭和33
 稻川恵子
 ○昭和34
 小林正子
 ○昭和35
 工藤イツ、小宮三郎、山家恵美子

渡辺信夫
 (以上三〇一名)

◎ 20周年記念事業会計報告 昭和54.1.2.1現在

| 収入の部 | ¥1,138,756 | 支出の部 | ¥1,138,756 |
|-------------|------------|-------------|------------|
| 振替口座入金(279) | 923,500 | 太鼓一式 | 219,000 |
| 現金(22) | 212,700 | 片貝会旗一式 | 210,000 |
| (寄付者総計301) | | 寄贈図書(小) | 91,415 |
| 銀行利息 | 2,556 | " (中) | 97,633 |
| | | 来賓記念品(42) | 67,840 |
| | | ふるさと片貝(380) | 69,920 |
| | | 桜苗木及運賃(200) | 41,730 |
| | | 郵送料その他 | 30,678 |
| | | 送金料・会議費 | 105,400 |
| | | 名簿発行予備費 | 200,000 |
| | | ふるさと会館予備費 | 100,000 |

上記の通りご報告いたします。

予備費の用途は役員、年次代表の承認を得ており、次期総会までに支出の見込銀行利息などの余剰金が出たときは、本会計に繰り入れます。

寄付については、年会費を差引いて記念事業に繰り入れました。ご了承願います。